

■高階栄子(丹後局) 女官，行政家，策謀家。後白河法皇の寵愛を背景に，政治力を発揮したが，後鳥羽院政で失墜。

たかしなのえいし

・ ・ ・ ・ ・ 1149 = この頃，高階一族の法印で延暦寺の三綱つとめた澄雲の娘に生まれる。

保元の乱 ・ ・ 1156 = 7歳：

後白河院政始1158 = 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1164 = 15歳：_平業房の妻となる。

清盛太政大臣1167 = 18歳：平滋子が後白河上皇の女御になった際の侍始の儀に名があり，_業房は滋子に仕えていたと思われる。

後白河出家 ・ 1169 = 20歳：この年，出家して法皇となった後白河がなお権力を握るなか，

この間，業兼(藤原実教の猶子になる)と女子3人を生んでいることから，女房つとめておらず，

法然浄土宗始1175 = 26歳： 後白河が最も寵愛していた建春門院滋子連れて，業房の浄土寺堂に御幸した際，法皇と初対面，

・ ・ ・ ・ ・ 1176 = 27歳： 末子教成を出産。その滋子が死去すると，

鹿ヶ谷事件 ・ 1177 = 28歳： 後白河法皇の近臣が集まり，平氏打倒の鹿ヶ谷の謀議，密告により藤原成親や俊寛が配流となるなか，業房は法皇の嘆願で放免された上，

治承のクーデタ 1179 = 30歳： 正五位下左衛門佐に任じられて世間を驚かせるほどの寵臣であったが，治承三年のクーデターで平清盛によって後白河法皇が鳥羽殿に幽閉されると，業房も解官の上，伊豆国に流罪に処され，脱走しようとして処刑されてしまう。その後，鳥羽殿の法皇に近侍することになると，たちまちのうちに寵愛を得る。

源氏一斉蜂起1180 = 31歳：

平清盛没 ・ ・ 1181 = 32歳： *清盛の死去し，ようやく法皇が法住寺殿に遷御。浄土寺堂で亡夫業房の供養した際，法皇が多くの殿上人を遣わして，またも世間驚くなか，法皇の皇女(観子内親王)を出産。これを機に法皇の寵愛と信任を得た第一人者となり，政治にも介入。権勢は著しく，かつての唐王朝の楊貴妃にたとえられたらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1182 = 33歳： 再び，浄土寺堂で亡夫業房の供養。

後鳥羽天皇 ・ 1183 = 34歳： 源義仲の攻勢の前に平氏が安徳天皇を奉じて都落ちした。法皇は安徳天皇を廃して新たな天皇を擁立しようとしたが，このとき後鳥羽天皇を立てるように進言したと言われている。

平氏滅亡 ・ ・ 1185 = 36歳： 平氏滅亡後，

九条兼実摂政1186 = 37歳： 三度，浄土寺堂で亡夫業房の供養。*鎌倉の源頼朝との顔役となり，大江広元と何度も交渉に当たる。

藤原秀衡没 ・ 1187 = 38歳： 従三位に叙され，

・ ・ ・ ・ ・ 1188 = 39歳： 末子教成が早くも昇殿を許され，

奥州藤原滅亡1189 = 40歳：

臨濟宗始 ・ ・ 1191 = 42歳： 左近衛少将に任じられる。_観子内親王が院号宣下で宣陽門院となると，従二位となり，浄土寺山荘が火災で焼失するも，すぐに新造するなど，異例づくめの扱いをされ，

鎌倉幕府始 ・ 1192 = 43歳： *法皇の死去で，出家し"浄土寺二位"とよばれるようになるが，法皇の遺言により山科に所領を与えられ，同じく長講堂領を与えられた宣陽門院と共に，なおも政治に介入。頼朝を後ろ盾に朝廷で権勢を誇るようになった九条兼実と反発する一派と組んで対立する一方，頼朝とは進物を贈りあうしたたかさもあったが，

・ ・ ・ ・ ・ 1194 = 45歳：

東大寺再建完1195 = 46歳： 頼朝が娘の大姫を後鳥羽天皇に内入させようとしたことには消極的で，

建久7年政変 1196 = 47歳： _土御門通親と共に兼実を失脚させることに成功。その後，朝廷の実権を通親とともに掌握するが，

源頼朝没 ・ ・ 1199 = 50歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1202 = 53歳： *通親が死去し，後鳥羽上皇が本格的に院政を開始したため，威信は急速に失墜，

執権政治始 ・ 1203 = 54歳：

朝廷から去り，亡き夫の業房の所領にあった浄土寺に住み，

方丈記 ・ ・ ・ 1212 = 63歳：

北条頼朝確立1213 = 64歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1216 = 67歳：_没した。